

入院中の精神障がい者の地域生活への移行に向けたいわき市の課題

実態調査結果（いわき分）から

- ・ 家族や地域住民の精神障がい者への偏見や理解不足
- ・ 退院支援プロジェクトを持たない精神科病院が 83.3%
- ・ 地域移行支援を利用した患者がいない病院が半数（3病院）
- ・ 院内各種スタッフの理解の隔たりがある。
- ・ 精神科病院と市や相談支援事業所との連絡会議の開催が無い。
- ・ 帰れる場所がない。
（震災後、低価格のアパートがない。また、グループホーム等の施設も足りない。）
- ・ 相談支援事業所では、計画相談に追われており、地域移行・地域支援への対応ができない状況にある。

地域生活への移行に向けた具体的方策

【退院に向けた意欲の喚起のために】

- ・ 地域における精神障がい者への理解促進。
- ・ 地域移行事業の周知を図る。（本人・関係者）
- ・ 病院スタッフからの働きかけのために、職員研修等の実施。

【本人の意向に沿った移行支援（本人の状況に応じた移行先の「つなぎ」機能の強化）のために】

- ・ 病院と市や相談支援事業所との連絡会議開催。
- ・ 退院後の生活準備のために、入院中から福祉制度活用のための申請等支援。
- ・ 相談支援事業所における精神障がい者の対応等の充実を図る。

【地域生活の支援のために】

- ・ 居住の場の確保（グループホーム、アパート、市営住宅 等）
- ・ 地域生活を支える福祉サービスの整備。
- ・ 退院後の治療中断や症状悪化の把握と対応のシステム作り。